

8 鉄鋼タスクフォース

8.1 タスクフォースの特徴

1990年代、世界の粗鋼生産量の年間平均成長率は0.8%と大きな変化はなかった。しかし2000年以降、2006年までの粗鋼生産年間平均成長率は6.7%を記録し、大きな伸びを示すようになっていく。その結果、2000年までは8億トン前後で推移していた粗鋼生産量は2006年に12億トンを超えた。日本は1.16億トン（2006年、世界2位）に達し、高度経済成長直後の73-74年に次ぐ史上3位の水準であった。中国などに向けた輸出が好調な自動車や産業機械用の鋼板と、景気回復によるビル建設ラッシュが近年の国内生産の増大要因と見られている。他のAPP加盟国の粗鋼生産は、中国が4.2億トン¹（同34%）、韓国0.5億トン（同4%）、インド0.4億トン（同4%）、アメリカ0.9億トン（同8%）、カナダ0.2億トン（同2%）オーストラリア0.1億トン（同1%）であり、これらをあわせたAPP加盟国の粗鋼生産量は世界の約6割にのぼる。

鉄鋼業のグローバルな業界団体としては世界鉄鋼協会（WSA: World Steel Association、2008年10月にIISI: International Iron and Steel Instituteから改名）があり、グローバル・スチール・セクター別アプローチを展開しているが、この活動はAPPの取り組みをほぼ踏襲し、グローバルなレベルに広げたものである。現在はプラント別のCO2排出データを収集している。2008年10月現在、会員企業の60%（世界の約32%、粗鋼生産ベース）のデータを集めており、75%の収集を目指している。また、APPはIEAとの連携もっており、2008年4月のタスクフォース会合にIEAの研究者が出席したほか、IEAの出版物の中でもAPPの取り組みが参照されている。

8.2 今年1年の活動

2008年4月14～15日にかけて韓国釜山にて第5回鉄鋼タスクフォース会合、16日にはワークショップが開催された。この会合では、それまでタスクフォース内部進めてきた分析・調査結果の信頼性、透明性を高めるため、第三者の立場でHATCHが関与することなどが決まった。

第6回タスクフォース会合は同年11月26-28日、中国の北京において開催された。中国での開催ということもあり、中国の政府関係者、研究者やメーカーなどからの参加が見られ、今後、中国の関与がさらに増していくことが期待される結果となった。また、各国それぞれが鉄鋼セクターにおける中期的な効率目標を設定するための手法が議論され、次回会合において合意を目指す方向性が確認された。

プロジェクト4の一環として、2008年度には日本の鉄鋼技術者がインドの製鉄工場を訪れ、診断調査を行った。2009年2月11-13日にはTata Steel LimitedのJamshedpur Works、同月16-19日にはRashtriya Ispat Nigam Limited（RINL）のVisakhapatnam Steel Plantで実施された。生産設備において講じられているソフト・ハード両面の省エネルギー・環境対策に関する現状を分析、有効な対策を診断した。

第7回TF会合は来年5月4-7日にアメリカセントルイスで(Technology Showcaseと同時開催)、第8回TF会合は2009年秋頃カナダで開催予定になっている。

8.3 日本の貢献と主な成果

鉄鋼タスクフォースにおいて、日本は議長国として官民が上手く連携を取りながらリーダーシップを発揮している。プロジェクト2では省エネや環境保護、リサイクルに関する有効な技術お

¹ 最新の情報では、2008年に中国の粗鋼生産は5億トンを超えたとされている。（出典）WSAホームページ

よび設備を特定した後、プラントの省エネ施設などの設備普及率を調査し、CO2削減ポテンシャルを推計した。調査の第二段階として、APP 加盟国共通のバウンダリーと排出係数を設定し、プラントごとのエネルギー効率を調査しており、ここでも日本は主体的な役割を果たしている。

プロジェクト 4 では主に中国・インドの工場を対象に、省エネ・環境の先進的な知見をもった技術者が現地を訪れ、技術的なアドバイスを行っている。2007 年 12 月には中国の 3 製鉄所、2008 年 1 月にインド 1 製鉄所、2009 年 2 月にはインドの 2 製鉄所に対し、日本の専門家が省エネ・環境診断を実施している。

プロジェクト 5 では、64（環境技術：22、省エネ技術：42）の環境・省エネ技術を“SOACT（State-of-the-art Clean Technology）Handbook”としてまとめ APP のホームページ上で公表している。そのうち 27 の技術情報については日本が提供したものである。

8.4 各プロジェクトのまとめ

番号	タイトル	概要
STF-06-01	APP鉄鋼ワークショップ	パートナー諸国の政策、ならびに省エネ、環境保護、リサイクルに関する技術情報の相互理解およびそれらの収集を推進するとともに、政府・民間部門での対話を通じた障壁および解決策の意見交換をする。
STF-06-02	鉄鋼産業に関する省エネ指標等の現状調査	鉄鋼産業のプラントにおける省エネ設備の普及率を調査し、CO2削減ポテンシャルを推計するとともに、共通の定義およびバウンダリーの問題を定め、エネルギーとCO2排出の効率指標に関して考察する。
STF-06-03	パフォーマンス指標の設定	各国の状況や背景を考慮しつつ、CO2やSO2などエネルギー効率および環境改善に関する定量的な目標を設定する。
STF-06-04	パフォーマンス診断	パートナー諸国、特に中国とインドを対象に、技術やプラクティスの導入、普及、展開を支援することを目的に、省エネおよび環境保護の専門家を派遣し、改善のための適切なアドバイスをする。
STF-06-05	SOTACTハンドブック	鉄鋼産業における省エネや環境保護の技術およびプラクティスに関する情報を包括的にまとめたハンドブックを作成、公表し、定期的に更新する。
STF-06-06	技術の装備	パートナー諸国に費用効果の高いクリーンな技術を普及・展開させ、温室効果ガス排出ならびに環境保護のパフォーマンスを改善させる。